

氏名	あだち た え こ 安立 多惠子
学位の種類	博士 (生命科学)
学位記番号	甲第38号
学位授与年月日	平成16年 3月16日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
学位論文題目	The metaphor and sarcasm scenario test : a new instrument to help differentiate high functioning pervasive developmental disorder from attention deficit/hyperactivity disorder (比喩・皮肉文テスト：高機能広汎性発達障害と注意欠陥／多動性障害の鑑別に役立つ新しい検査法)
学位論文審査委員	(主査) 大野 耕 策 (副査) 畠 義 郎 佐藤 建 三

## 学 位 論 文 の 内 容 の 要 旨

高機能広汎性発達障害 (以下 HFPDD) と注意欠陥／多動性障害 (以下 AD/HD) は、異なる障害であるが、しばしば行動上の類似性を示し、鑑別が困難なことがある。最近、学校では不適応を起こす児童が増えており、彼らを適切に援助するための診断が不可欠となっている。HFPDD は「心の理論」課題に失敗する傾向があることが以前から知られている。その理由のひとつとして比喩や皮肉や反語などの理解の困難さがあげられている。しかしより適切な診断には、客観的な評価に基づいて、彼らの認知面の違いを探ることが重要である。本研究の目的は、試作した比喩・皮肉文テストを実施した結果から、HFPDD と AD/HD の特徴を明らかにし、テストの有用性について検討することである。

### 方 法

対象はウェクスラー式知能検査で **FIQ**、**VIQ** がいずれも 70 以上という条件を満たした 7 歳～14 歳の AD/HD 群 29 名 (男児 26 名)、HFPDD 群 54 名 (男児 46 名) と 8 歳～12 歳の小学校児童のコントロール群 199 名 (男児 96 名) である。比喩・皮肉文テストは比喩文 5 問、皮肉文 5 問の 10 点満点で構成し、解答方法は黙読による 5 者択一である。皮肉文の選択肢のひとつには、皮肉られたのに褒められたと勘違いした解答 (以下皮肉誤答) を加えた。全員にテストを実施し、比喩文、皮肉文、皮肉誤答を避けた解答を各々得点化した。患児群には「マーブルの箱」という「心の理論」課題を実施し、通過、未通過に分類した。データ解析は①各テスト得点について AD/HD 群、HFPDD 群、コントロール群間のクラスカル・ウォリス検定による多重比較、および各群内のウィルコクソン検定による得点比較、②テスト得点と年齢、IQ との相関、③「心の理論」課題とテスト得点、年齢、IQ をマンホイットニーの検定により比較した。

## 結果

①比喩文の正答数はAD/HD群が $2.5 \pm 1.7$ （平均 $\pm 1$ 標準偏差）、HFPDD群が $2.5 \pm 1.6$ であり、コントロール群は $4.1 \pm 1.2$ であった。患児群はともにコントロール群よりも有意に低かった（ $p < 0.001$ ）。皮肉文の正答数はAD/HD群で $3.0 \pm 1.6$ 、HFPDD群で $1.8 \pm 1.8$ 、コントロール群で $3.3 \pm 1.7$ であり、HFPDD群がAD/HD群に比して有意に低かった（ $p < 0.01$ ）。皮肉誤答を避けた解答数はAD/HD群で $3.7 \pm 1.6$ 、HFPDD群で $2.5 \pm 1.7$ 、コントロール群で $4.2 \pm 1.2$ であり、HFPDD群がAD/HD群に比して有意に低かった（ $p < 0.01$ ）。ウィルコクソン検定による比喩文と皮肉文の群内差はHFPDD群とコントロール群に有意差が認められ（各 $p < 0.01$ ,  $p < 0.001$ ）、AD/HD群では比喩文と皮肉文の得点はバランスがとれていた。②比喩文の正答数は年齢やIQが上がると得点も高くなるが、皮肉文では相関がなかった。③「心の理論」課題はAD/HD群22名（84.6%）、HFPDD群36名（69.2%）が通過した。両群間の課題通過率には有意差はなかった。「心の理論」課題を未通過のAD/HD群は通過したAD/HD群に比べてFIQが有意に低かったが、HFPDD群では逆に未通過群の方が有意に高かった。さらに未通過のHFPDD群では皮肉文の正答数が $0.6 \pm 0.7$ （ $p < 0.001$ ）と通過したHFPDD群に比べて有意に低いという結果であった。

## 考察

AD/HD群とHFPDD群の違いは、皮肉文の理解とその誤り方であり、HFPDD群では特異的に皮肉文の理解が低く、皮肉られたことを褒められたと勘違いしていることが示された。「心の理論」課題が通過しなかったAD/HD群では、IQの低いことがその理由と考えられたが、HFPDD群では逆にIQが高くても「心の理論」課題が通過しない症例が存在しており、IQに依存しない別の能力が介在していると思われた。この違いがHFPDD群とAD/HDの共感性能力の違いになっているのではないかと思われた。

## 結語

HFPDD群では、特異的に皮肉文の理解が低い。皮肉文の理解は「心の理論」課題と密接な関係があるが、比喩文の理解にはその関係がない。比喩・皮肉文テストはコミュニケーション場面において問題となる特徴が明らかにでき、両群を鑑別する上で有用な手段になると期待される。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は高機能広汎性発達障害（HFPDD）児と注意欠陥／多動性障害（AD/HD）児および一般の小学校児童を対象に、試作した比喩・皮肉文テストを実施し、これまで語用論的意味解釈の中で、同等に扱われてきた比喩文と皮肉文の理解の違いを、検討したものである。その結果、HFPDDはIQが高くても特異的に皮肉文の理解が低く、皮肉られたことを字義通りに褒められたと勘違いする誤り方を示した。また皮肉文の理解は心の理論課題と密接な関係があるが、比喩文の理解にはその関係がないことが判明した。本論文の内容は、発達障害学の分野で、HFPDDとAD/HDの鑑別上、比喩・皮肉文テストの有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたと認める。